

第1回 田原本町小中学校施設再配置基本計画策定に係る外部有識者会議 意見概要

【開催日時】: 令和3年7月16日(金) 10:00~12:00

【開催場所】: 青垣生涯学習センター(1F・視聴覚室)

※各委員の意見をカテゴリ別・発言順にて以下意見概要欄に抜粋掲載

| カテゴリ | 付番 | 意見概要 |
|-----------------------|----|---|
| 再配置基本計画素案の基本方針について | | |
| 施設老朽化への緊急対応 | 1 | (教育環境として安心して学ぶことができる学校施設の充実について)田原本小に続き南小学校でも校舎施設の壁面落下事故が発生したことを受け、できるだけ早く統合して、安全な環境にしてもらいたい。建替の費用が課題になるが老朽化への対応を進めてもらいたい。 |
| 検討の前提条件 | 2 | 幼稚園の再配置については、この再配置計画の検討結果が出てから検討される猶予を頂いているという理解にある。 |
| | 3 | (小規模校に該当する東小、北小について)現在、少人数で目が行き届くという点ではよいが、子どもたちがいる人々と接していけるようにするためにも、将来的には統合が必要だと考える。 |
| | 4 | 東小について直近は1学年1クラスの状況であり、人数も1桁しかない。来年以降も1桁人数が続く見込みである。幼稚園と小学校の保護者としては温度差がある。小学校ではPTAとしては早く統合を求める声もある。一方、幼稚園では途中で環境が変わることを危惧する意見も挙がっており、幼稚園では結論を早く知りたいとの不安の声がある。小学校は2クラス程度がいいのではという意見も挙がっている。 |
| | 5 | 教育環境が不均衡、不平等にならないよう、20-40年後を見据えて考えていく必要がある。財政の観点からは、子どもたちの教育環境だけではなく、今後、町は高齢化も進行し社会保障の費用がますます必要となり、財政的にも厳しくなるだろう。学校再配置について意見を伺うと必ず賛否ができるものであるが、声の大きい意見に引きずられないようにすべきである。本委員会においても将来を見据えた観点で議論を進める必要がある。 |
| 基本目標、技術的要件 | 6 | 基本計画の記述については問題ない、短期目標としてもよいと考える。技術的要件として通学距離、都市計画的な規制や、県営住宅の老朽化およびその建替を見据えることなども考えられる。将来20年後を見据えて通学の問題、再配置、地域性を踏まえて検討できればと考える。また統合後の跡地利用として売却を考えて費用に充てる、あるいは基金として積み立てることも重要である |
| | 7 | 先のことになるが小中学校を大きく集約する再編も考えられる。小学校2つ、中学校1つにするくらい集約してはどうか。 |
| | 8 | 短期目標として緊急を要する東小が対象になると思われるが、2025年(4年後)にどこまで進むのか。在校生はどうなるのか。毎年児童数が少なくなっているのが不安である。 |
| 再配置基本計画に関する再配置パターンの検討 | | |
| 再配置パターンの検討 | 9 | 統廃合パターン案はあくまで規模(人数、学級数)から抽出して出されたものであり、また別途評価項目を設けて検討されるものと思うが、校区について東小校区のなかでも南小に近い方もいる。校区変えはどのように考えるか。また現在の校区は保たれるのか。 |
| | 10 | 資料データ「学校区別の人口推移(推計)」について幼稚園、小学校、中学校の年齢区分で表示できないか。1学級当たりの児童数について、現在40人学級であり、今後35人学級が考えられている。26人学級の実現性は難しいのではないか。35人学級にしてはどうか。グローバル化や急速な情報化が進む中で、新しい環境をつくる観点から再配置を進めてもらいたい。また、現在の老朽化の状況を踏まえると緊急性が高いと考える。 |
| 評価項目の検討 | 11 | 数値だけの判断に依らない評価項目を入れているのはよいと考える。人数が少ないのがよいこともある一方、やはりコミュニケーションとしての社会性を養う観点が必要である。ある程度の人数がいる環境で教育できるよう目標に検討していただきたい。 |
| | 12 | 再配置の検討にあたっては、人口減少、施設の老朽化、都市計画・まちづくりの視点を踏まえた検討が必要である。単に数値的な検討ではなく、地域の声を反映した再配置にしていただきたい。今後、会議の中で血の通った案にしていけるようにし、また住民説明会も丁寧にして頂きたい。 |